



きりえ「風のように」(ミヤコドリ):くすだひろこ

希望を持って！

新年 おめでとうございます！！

2021年1月

和白干潟を守る会の環境保全活動は、33年目を迎えます。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、これからも環境保全活動を続けていきます。昨年は世界中で新型コロナウイルス感染症が流行し、多くの人々が感染症にかかったり亡くなったりしました。日本でも緊急事態宣言が出されました。和白干潟を守る会では多くの活動が制限され、和白干潟まつりも中止いたしました。3月～5月までは、クリーン作戦も呼びかけを行わず守る会のできる人で清掃しました。定例会議も定例会議資料を和白メールで会員に送りました。緊急事態宣言が解除された6月からは、感染防止対策をとりながら定例会議やクリーン作戦を実施してきました。コロナウイルスのワクチンも開発されつつあり、明るい兆しを感じられます。今年こそは楽しい和白干潟まつりを開催したいですね。

ミヤコドリは今冬は19羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも17羽を確認しています。ツクシガモは190羽を確認しました。今冬はハマシギも250羽が飛来しました。

2021年を迎え、世界の湿地や干潟の保全が進むことを心から願っています。33年目の今年も、和白干潟を守る活動に皆さまのご協力をお願いします。多くの方が和白干潟の環境保全活動に参加して、和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となることを願っています！今年もどうぞよろしくお願いいたします！

和白干潟を守る会 代表 山本 廣子



筑陽学園中学校3年生の校外理科学習の感想

筑陽学園中学校では3年生になると和白干潟を訪れます。今回で28回目です。午前中は野鳥観察や干潟の生物観察を行い、午後からは9班に分かれて先生方や守る会のメンバーと一緒に調査を行っています。干潟動物生息調査（砂地、砂泥地、泥地・岩場）、カニ類巣穴調査、干潟の汚染とアオサの調査、干潟沿岸の植物調査、干潟の汚染と浄化能力の調査です。和白干潟での校外理科学習を体験した生徒の皆さんから楽しかったこと、勉強になったことなどたくさんの感想が寄せられましたのでご紹介します。

(中 島)



砂泥地の調査

○海の生き物や植物に出会うことができたのが楽しかった。川のカニは石の下に隠れるが海のカニは丸い穴を掘って中に潜んでいたのがとても可愛く、観察が楽しかった。

○望遠鏡で3種類の鳥を見ることができた。カモの群れは可愛くて、棒の上にとまっている鳥とは目が合い、3番目に見た鳥はフラミンゴみたいな立ち方をしていた。

○干潟の土は泥のにおいだったが、掘ってみると海のにおいがしてとても驚いた。

○何か所も砂を掘ったけど、石やゴミがたくさん出てきたのが

印象に残った。潮が引くのがとても速くて驚いた。

○最初は海が近くてびっくりしたが、時間がたつにつれ離れていったのでまたびっくりした。

○守る会の人の話がすごく面白かった。人間と海の共存のために頑張っている人々はすごくカッコいいと思った。

○海の汚れを取るのがアサリやシジミという事が知れてよかった。カニが可愛かった。鳥が可愛くて大きいレンズで見たらドキドキが止まらなかった！

○ウミニナ、ゴカイ、ダイサギなどたくさんの生物の名前を覚えた。本などで学ぶより実際に見て聞いて体験したほうが頭にスッと入ってきた

のでよかった。



泥地・岩場の調査

○鳥の口ばしの形によって

食べる生き物や食べ方が違うということが分かった。

○場所によって住んでいる生き物やアオサの様子が違うこと、また大きいカニや小さいカニ、色が違うカニなど近い場所でも違うものがあって驚いた。

○守る会の方々が心優しく接してくださったので楽しく学ぶことができた。見える景色がとても素敵だったのでまた訪れてみたいと思う。もっと長い長靴を持って！



アオサの調査

思い返せばもう28年にもなる筑陽学園中学校の校外理科学習です。現在熊本大学に行かれた逸見泰久さんがこの先生だった時に企画された学習で、守る会も手伝いを頼まれました。一日和白干潟で観察会や調査をしますが、午後の調査は大学で学ぶような内容です。守る会もたくさん学べました。生徒たちはよく取り組んでいると思います。全国で干潟が埋め立てられて少なくなった今、このすばらしい不思議な世界を味わうことができ、貴重な体験ができたのではないかと思います。今後和白干潟を体験した生徒たちが、干潟や地球を守る人に育って行ってほしいと願っています。一度壊すと元にはなかなか戻すことができない自然を簡単に壊すことの無いように。

(山本)

本の紹介 ～ 「和白ひがた文庫」より ～

富山和子/作 大庭賢哉/絵 講談社青い鳥文庫

< 自然と人間シリーズ >

「川は生きている」 (産経児童出版文化賞受賞作品)

「道は生きている」

「森は生きている」

「お米は生きている」 (産経児童出版文化賞大賞受賞作品)

「海は生きている」 (2010年青少年読書感想文全国コンクール課題図書)

(対象) 小学中級から ノンフィクション



山本代表推薦の本です

2019年、国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J) 推薦子ども向け図書「生物多様性の本箱～みんなが生きものをつながる100冊～」の103冊が和白干潟を守る会に寄贈され、「和白ひがた文庫」と名付けました。

上記の5冊の中で寄贈されたのは「川は生きている」、「森は生きている」でしたが、内容がよかったので、他の3冊も購入して、ひがた文庫に追加しました。小学生向けの本で漢字にはルビがふってあり、とても読みやすい本です。

「『川』と『森』を結びつけるのが『道』で、『川は生きている』、『道は生きている』、『森は生きている』の3冊をセット

で読んでではじめて、1つのことがわかる」と著者は言っています。その後に、「お米は生きている」「海は生きている」が出来、31年かかって完結したそうです。「5冊全部読み終えたら、地球丸ごとが見えてきた」とたくさんの読者が感想を述べているとのことでした。

実際に読んでみると、私たちの周囲のことをわかりやすく説明しており、「ああ、そういうことだったのか」と目の前がパッと開けてくる感じがしました。人間が自然とかかわって自然に手を加え、循環型の仕組みを作り上げてきたということがわかりました。

読み終えて、自分の中で「川」、「道」、「森」、「お米」、「海」が結びつき、歴史的なことも含めて全体像が見えてきました。自分が日頃、いかに目の前の事だけを見ているかを気づかされました。読みやすい本ではありますが、総合的な内容の問題を子どもにも理解できるように表現するのは、大変だっただろうなと思いました。

和白干潟の保全活動を行う和白干潟を守る会は、和白干潟の集水域である立花山から和白干潟に注ぐ唐原川流域の6グループと「山・川・海の流域会議」を作り、この集水域の環境保全活動をしています。地球規模での総合的な環境保全についての考え方もしっかり持つ必要があると改めて思いました。



皆さんも、ぜひこの本を読んでみてください！

和白干潟の自然だより（秋～冬）

（山本 廣子）

ウラギクの綿毛 キク科 準絶滅危惧（環境省）絶滅危惧 B類（福岡県）

ウラギク（ハマシオン）は海岸の塩分を含む湿地に生える多年草です。以前は大群落が見られましたが、最近ではアシ原入り口付近やアシ原の中道にアシに混じって生えており、それほど多くはありません。高さは25～55cm、細い葉がついています。花は10月頃に咲き、淡紫色で優しい匂いがします。北海道から九州まであるそうですが、和白干潟では海の広場やアシ原付近と雁ノ巣海岸にあります。和名は「浦ギク」。花が終わった11月頃からは綿毛にくるまれた種ができます。丸くなった綿毛がとても可愛いです。



ウラギクの綿毛

カモの足跡



カモの足跡

冬になり、和白干潟にはたくさんのカモたちが越冬に来ています。潮が満ちても残る砂洲には、満潮時に鳥たちが詰めかけて休んでいます。カモやミヤコドリ、カワウなど様々な鳥たちがいます。潮が引いて砂洲に行ってみると、たくさんの足跡が残っています。子どもたちの観察会でも、足跡を見るとどんな鳥の足跡かが話題になります。大きなサギの足跡、思ったよりも小さくて段々のあるカラスの足跡、小さなハマシギの足跡、水かきのあるカモの足跡など様々です。ここにこれらの鳥たちがいたんだと思うと、嬉しくなります。和白干潟はたくさんの鳥たちの住処なのです。しかし最近では鳥インフルエンザなどの困った感染症が流行り、足跡のそばに落ちている糞を踏まないようにしなければなりません。

オオバン クイナ科 全長：39cm

オオバンは冬鳥として和白干潟を訪れています。以前はほとんど見られない鳥でしたが、2010年頃より増え始めて2020年1月にはとうとう1000羽を超えて1262羽が越冬しました。クイナ科の中では大きくて太っており、尾羽が無いように見えます。体は黒くて嘴は白っぽく、嘴に続く額は硬くて白く額板と言います。奈多の海岸ではオオバンの団体がほぼ全面を占めるようになりました。頭部を盛んに前後に動かしながら泳ぎます。泳ぎも潜水も得意で、潜ってアシの若葉や海草などを食べています。足の指に特異な水かきがあり、弁足というそうです。歩くところは余り見かけませんが、足跡は可愛いです。



オオバン

冬の和白干潟のしぜん

和白干潟は自然海岸のある干潟です。冬のアシ原ではクコやノイバラ、シャリンバイ、トベラなどの木の実が豊かになっており、シロハラやツグミが見られます。ウグイスの地鳴きも聞こえ、アシ原の中は暖かです。大都会福岡市の中にこのような豊かな自然が残っているのは、貴重なことだと思います。未来の子どもたちにぜひ残したい自然ですね。

冬の和白干潟には北西の風が吹きつけ白波が立ち、引いた干潟には砂紋が美しく残ります。寒いのでウミニナも干潟に潜ってしまい、何もいない砂浜に見えます。12月には冬鳥がそろいました。淡水ガモ、海ガモ、カイツブリ類、シギ・チドリ類など。今冬は久しぶりにハマシギやシロチドリの群れが帰ってきました。もっともっと回復してほしいですね。



ハマシギの群れ

11/22 第8回「唐原川お掃除し隊」(山・川・海の流域会議主催) 24名参加

今年はコロナ禍の影響もあり参加人数も例年より少なかったのですが、その割には参加者の頑張りでゴミの回収量は去年と同程度(56袋)でした。川底に降りて清掃しましたが、場所によっては泥が堆積しアシが長く伸びている所もあり、多くのゴミがその中に隠れていました。アシを刈るなどの対応を行政に働きかけたと考えています。大きいものではじゅうたん、丸太、ガスボンベなどがあります。それにしてもゴミが減らない現状が残念です。清掃活動中に通りがかりの女性から活動へのお礼の言葉をもらい、初めて参加された方から「清掃活動に参加して楽しかった!」との声もありました。(松田)



11/17, 11/24 九産大・地域共創学部と経済学部・宗像ゼミで特別講義「若い皆さんに託したい、和白干潟の自然と地球の未来!」

例年九州産業大学宗像ゼミで「和白干潟の特別講義」をさせていただいていますが、今年はコロナ対策として遠隔方式で実施されました。講義資料とパワーポイント資料をPDFにしたものを、学内のシステムを通じて受講生に配信して、受講生がそれを読んで内容をまとめてレポートで提出するという方法です。11/17に地域共創学部・経済学部「行政学」20名に、11/24地域共創学部「地方自治論」・経済学部「地方行政論」40名に配信されました。

12/6に受講者アンケートをお送りいただきました。アンケートは「本日の受講内容の整理」と「授業を受けての感想等」です。「小さいころから山で遊んでいたため自然があるのは当たり前だったが、福岡で暮らしているうちに自然は貴重だったのだと気づいた。自然を残す活動は大切だと思う」「私たちの行動を一つ一つ見直していかなければならないと感じた」「私たち人間だけが生きやすい世界ではなく、他の生物も生きやすい世界にすることが一番だと思った」「山本さんの和白干潟に対する熱意から、これ以上人間の都合で自然に影響を与えてはいけないという責任感が芽生えた」「自然を守るためには、私たちが行動することが大切だと学んだ」という感想が多くありました。これをきっかけに、和白干潟の保全活動に参加される方が増えると嬉しいですね。(山本)

熊本県知事 川辺川に穴あきダムの建設を国に要請?!

7月に起きた球磨川水害を受けて、熊本県知事は11月19日に12年前に白紙撤回した川辺川ダムについて、流水型ダム(穴あきダム)の建設を国に要請しました。穴あきダムでは流木や土砂で穴が埋まり水の濁りを発生させるなどの問題が指摘されています。近年ダム建設だけでは問題解決できないとして流域治水が進められていますが、球磨川流域ではこの12年間どの程度流域治水が進められてきたのでしょうか?

総合流域治水は保水地域、遊水地域、低地地域など流域全体で降った雨を処理する仕組みを作ります。保水地域は山林です。降った雨をため込み豊かな栄養分とともに川に流します。遊水地域はあふれた水を貯留する仕組みです。昔は畑や田んぼがその役割を果たしていました。低地地域は今では市街地化が進んで浸水被害が起きやすくなっており、貯留施設や水を別に流す放水路、河床掘削などが必要です。洪水危険地域では安全対策や避難対策などの条件規制も必要になります。ある河川では、越流堤を設け数か所の遊水地に水を誘導するそうです。遊水地は普段は畑や田んぼで遊水地に使わせてもらう田畑には、保証金を支払う仕組みになっているそうです。国内有数の清流として知られる川辺川に、問題のある穴あきダムを建設することで豊かな自然を破壊しないでほしいと願っています。ダムに頼らず、総合的な流域治水を進めてほしいと思います。



●気が付いたらあなたも電話してください!

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時
092-282-7146 (福岡市港湾空港局 維持課)

▼沖のアオサをとってほしい時

092-282-7153 (福岡市港湾空港局 みなと環境政策課)



＊ ＊ お 願 い ! ! ＊ ＊

●干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう!

●干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

●犬のフンの始末は飼い主がしましょう!

●弱ったり死んだ野鳥を見つけた時 → 092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所 地域環境課
092-643-3367 福岡県環境部自然環境課 野生生物係



活動日誌

(山之内 芳晴)

●2020年9月

- 9/1 (火) 2020年秋期シギ・チドリ調査2回目
(博多湾東部)
- 9/6 (日) 2020年秋期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 9/10 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 9/12 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 9/13 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
.....関係者のみで観察
- 9/15 (火) 2020年秋期シギ・チドリ調査3回目
一斉調査(博多湾東部)
- 9/22 (火) 和白干潟通信135号編集会議
- 9/23 (水) 2020年秋期シギ・チドリ調査3回目
一斉調査(今津)
- 9/26 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

●2020年10月

- 10/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 10/11 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 10/13 (火) 和白干潟通信135号発送会
- 10/14 (水) 筑陽学園中学校3年生の校外理科学習
- 10/24 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 10/27 (火) 和白小学校5年生の和白干潟観察会

●2020年11月

- 11/1 (日) センス・オブ・ネイチャーの和白干潟観察会
- 11/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 11/13 (金) 県立柏陵高校1年生の和白干潟観察会
- 11/14 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 11/17 (火) 観察会グループ会議
- 11/22 (日) 唐原川お掃除し隊(山・川・海の流域会議)
- 11/28 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

和白干潟と守る会の

2020年5大ニュース

1. コロナ禍のため、和白干潟まつりが中止になった
2. コロナ禍でも、クリーン作戦を続けることができた
3. コロナ禍でも、観察会が4回できた
4. 新しい会員が増えた
5. 蒲生干潟に行って、シンポジウムに参加できた

(2020年12月19日の定例会議にて)



シロチドリおひるね
/kino

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！！

11/24「和白東レインボークラブ」様より寄付金を頂きました。

干潟のつぶやき 「小さなアサリしかない！」

和白干潟では、守る会の人たちが毎年子どもたちを対象に自然観察会を行っています。観察会の中では、干潟の生きものの働きを知ってもらうために、ウミナヤアサリを使って海水の浄化実験を行っています。濁った海水をペットボトル容器に入れ、その中にそれぞれウミナヤとアサリを入れて、貝たちに濁った海水を綺麗にしてもらうものです。まず、浄化実験用のウミナヤアサリを採集します。以前は20ミリ前後のアサリが採れていましたが、今年は10～20ミリほどの6か月以下の稚貝がほとんどで、大きな貝は見当たりません。去年の夏から秋にかけてアサリ業者が船で来てジョレンを使ってアサリを根こそぎ採ってしまったことが影響しているようです。アサリ貝は年2回(春・秋)産卵し、1年で30ミリほどに成長することです。今の和白干潟を見ると1年以上生き延びたアサリが本当に少ないです。ジョレンを使った業者によるアサリ漁は当然だめですし、私たちも春の潮干狩りシーズン以外のアサリ採りは止めないといけません。アサリたちにも安らぎの期間をあたえましょう。



アサリ

和白干潟の観察会報告

(有江 圭子)

10/14(水) 筑陽学園中学校3年生68名と先生5名の校外理科学習



空が青く澄み渡り、心地よい風が吹く校外理科学習の日でした。バードウォッチングでは、コロナ感染防止のため、望遠鏡の接眼レンズの枠とレバーは一人ずつアルコール消毒し、順番を待つときは1メートル空ける、などの対策をして鳥を見ました。アシ原入り口で多くの生徒がアシハラガニを捕まえ、満足していました。午後は、9つのテーマでグループに分かれ、干潟の調査をしました。守る会は5人のガイドが 砂地の生きもの、砂泥地の生きもの、泥地・岩場の生きもの、アオサ植物についての調査の手伝いをしました。最後にガイドが一言ずつ調査の感想を言って、生徒

たちからのお礼の言葉で調査を締めくくりました。コロナ感染防止のため、春の観察会が中止になり、ガイドにとって今日は久しぶりの観察会でした。無事観察会が終わってほっとしました。

10/27(火) 和白小学校5年生106名と先生3名の和白干潟観察会

秋晴れの絶好の観察会日和でした。バードウォッチングではクロツラヘラサギ、ミサゴ、カワウ、カモ類がよく見えました。アシ原ではガイドが捕まえたアシハラガニを見せて、全員がアシハラガニを確認しました。コメツキガニは潮が引いたばかりだったのですぐには見つかりませんでしたが、子どもたちは根気よくスコップで穴を掘って見つけていました。沖では、アサリ掘りに熱中しました。和白川河口のハクセンシオマネキは少しですがハサミを振ってくれたので、良かったです。最後にまとめをして「いろんな生き物が見られてよかった」という感想がありました。挨拶をして子どもたちは元気に学校へ戻って行きました。



11/1(日) Sense of Nature(センス・オブ・ネイチャー)17名の和白干潟観察会



子ども11名、大人6名の参加者でした。望遠鏡の操作方法を教えると、自然を体験しようと集まった子どもたちだけあり、ふざけることもなくカモ達やミサゴやダイサギ、コサギなどを見ていました。アシ原ではアシハラガニを探し、ウミナナや火山の噴火口に似たゴカイの巣穴などを観察しながら砂洲に行き、コメツキガニを見つけました。アサリ採取では小さなアサリが沢山採れました。まとめの話では観察会で見つかった生きものを説明しながら見てもらいました。「アサリにオス、メスはあるのか」という質問がありました。事前に色々勉強されているようで、子どもたちも熱心さがあって良かったです。最後にミヤコドリ13羽が来てくれました。(山之内)

11/13(金) 県立柏陵高校環境科学コース1年生40名と先生4名の和白干潟観察会

空が青く、沿岸の木々も色づいていました。バードウォッチングでクロツラヘラサギを見ました。砂地に鳥の足跡があったので紹介しました。アシ原では観察会で唯一のアシハラガニを高校生が見つかりました。砂洲ではコメツキガニの巣穴がいつもより大きくて、コメツキガニがたくさん見つかりました。ほとんどの子が片手一杯のアサリを見つけ、アサリの豊漁でした。まとめの時、「還元層と酸化層について」「アオサの大量発生について」など高校生向けに話をした後、とった生きものを見てもらいました。みんな真剣な表情でメモを取りながら見ていました。「カニのことや、なぜ砂の下が黒いのかなど、色々知ることができました」との感想が出ました。今日感じたことを大切に、今後さらに環境についての学びを深めていってほしいと思いました。



新年度会費の納入をお願いいたします！

今年も和白干潟を守る会の一員として、和白干潟の自然を守る活動のためにお願いします。

年会費 個人2,000円、団体5,000円

郵便振替 01720-4-23860

和白干潟を守る会



同封の振替用紙をご利用下さい。

郵便局の受領書を領収書に替えさせて頂きます。

守る会問い合わせ窓口

ホームページ <http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

入会/観察会(申込等)・・・山之内 芳晴

Tel 090-8412-2663

クリーン作戦……………田辺 スミ子

Tel 090-1346-0460

広報/調査/定例会議……山本 廣子

Tel/Fax.092-606-0012

干潟まつり……………中島 伸子・松尾 満子

Tel 080-1701-8907



和白干潟を守る会 2021 年度総会を開催します！

■ 日時: 2月27日(土) 12時～14時 ■ 場所: 和白干潟を守る会事務所

総会では前年度の活動報告や会計報告を行い、新年度の活動方針やスケジュール、予算、役割分担などをみんなで意見を出し合い決定します。(引続き2月臨時定例会議を開催します)

定例スケジュール

● 定例会議 (1/23, 2/27, 3/27)

毎月第4土曜日12時～14時 守る会事務所にて開催。

時間変更などの事前確認をして、ご参加下さい。

和白干潟を守る会事務所…福岡市東区和白1-14-37

以下は参加自由です。仲間が待っています！

● クリーン作戦と自然観察 (1/23, 2/27, 3/27)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。

● 和白海岸探鳥会 (2/14, 3/14, 4/11)

毎月第2日曜日9時～12時 JR和白駅前の和白公園集合

参加費: 野鳥の会会員 100円、一般 300円 主催: 日本野鳥の会福岡支部



山・川・海の流域会議 新春講演会

日時 1月16日(土)10時～11時

場所 香住丘公民館

2F 地域団体室

テーマ 「立花山の歴史」

講師 郷土の歴史を学びあう会

党 弘行氏

会員募集中！

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会



和白干潟の鳥たち (その92) [全長 63cm]

ツクシガモ (カモ科 Common Shelduck) 筑紫鴨

絶滅危惧 類 (環境省) ・準絶滅危惧 (福岡県)



(撮影: 三宅僚)

ツクシガモは冬鳥として和白干潟に訪れています。以前は迷鳥としてたまに訪れるくらいでしたが、1997年に諫早湾が干拓されてからは和白干潟にも多数訪れるようになりました。1997年は104羽、2004年は805羽、2005年は1002羽の記録があり、昨年2020年は254羽でした。和白干潟で越冬しているカモたちよりも遅く、11月下旬～12月初め頃に渡ってきます。また他のカモたちよりも早く1月下旬頃から北帰行が始まるようです。ツクシガモは白黒赤のコントラストがミヤコドリと似ていて太って大きいので、ツクシガモがたくさん渡ってくると、ミヤコドリが目立たなくなります。潮が引くと水際で嘴を水面につけて左右に振りながら甲殻類や海草類を食べています。

九州北部に主に渡来しており、筑紫の名前がついているそうです。ミヤコドリやクロツラヘラサギと共に和白干潟を代表する冬鳥になっています。(山本 廣子)

【編集】中島 伸子・山本 廣子・山之内 芳晴・有江 圭子・田辺 スミ子

<カット> くすだ ひろこ

次号は2021年4月発行予定



【編集後記】今年の冬も和白干潟に沢山の淡水ガモや海ガモ達が来てくれました。昨年見られたアメリカヒドリも来ています。2日間の滞在でしたが、初めてトモエガモも見ることが出来ました。他にはミヤコドリ、クロツラヘラサギ、ハマシギ・シロチドリ・ミユビシギ等の混群、ダイゼン、ダイシャクシギなどもいて、心が弾みます。(田辺 スミ子)